第５次最上町総合計画の策定に係る

各種団体アンケート調査

報告書

令和２年８月

目　　次

◆　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・１Ｐ
◆　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・１Ｐ
◆　各質問項目の結果・・・・・・・・・・・・・２Ｐ
◆　記述意見・・・・・・・・・・・・・・・・・６Ｐ

◆　調査の概要

Ⅰ．目的

本町で公益的な活動を行っている団体に、自治協働のまちづくりに関する意見を聴取する。

Ⅱ．対象者

①調査対象

・母集団・・コニュニティ団体、ＮＰＯ団体、社会福祉法人、芸術文化団体
　　商工会、観光協会、物産協会、スポーツ団体等
・標本数・・２１団体

②調査方法

・留置き法

③調査日程

・配布日・・２０２０年　７月２１日
・締切日・・２０２０年　７月３１日

Ⅲ．調査項目

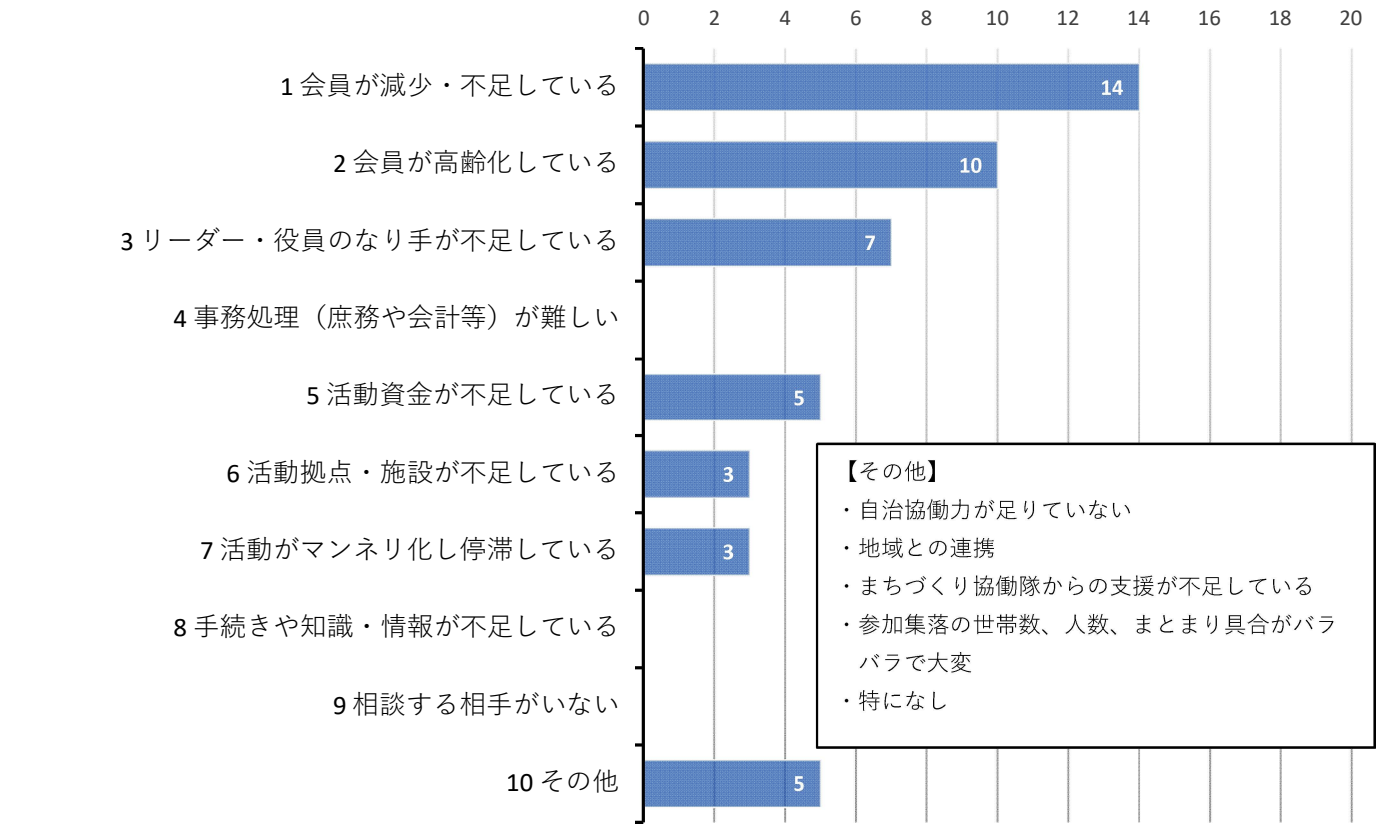
①まちづくりに関して、現在取り組んでいる活動と今後新たに取り組みたい活動
②活動を実施、継続していくにあたっての団体の課題と行政への要望
③その他のご意見、提案等

◆　調査の方法

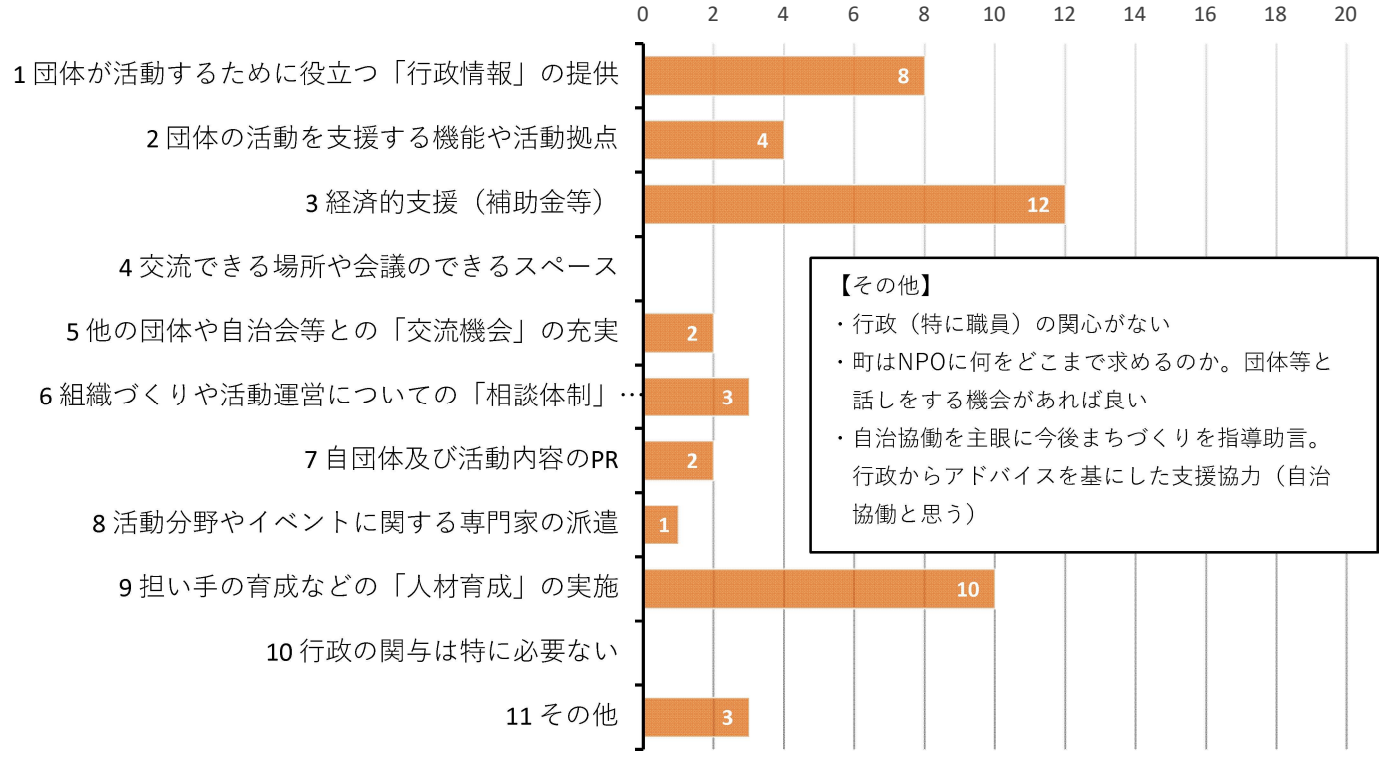
Ⅰ．集計・分析

・単純集計

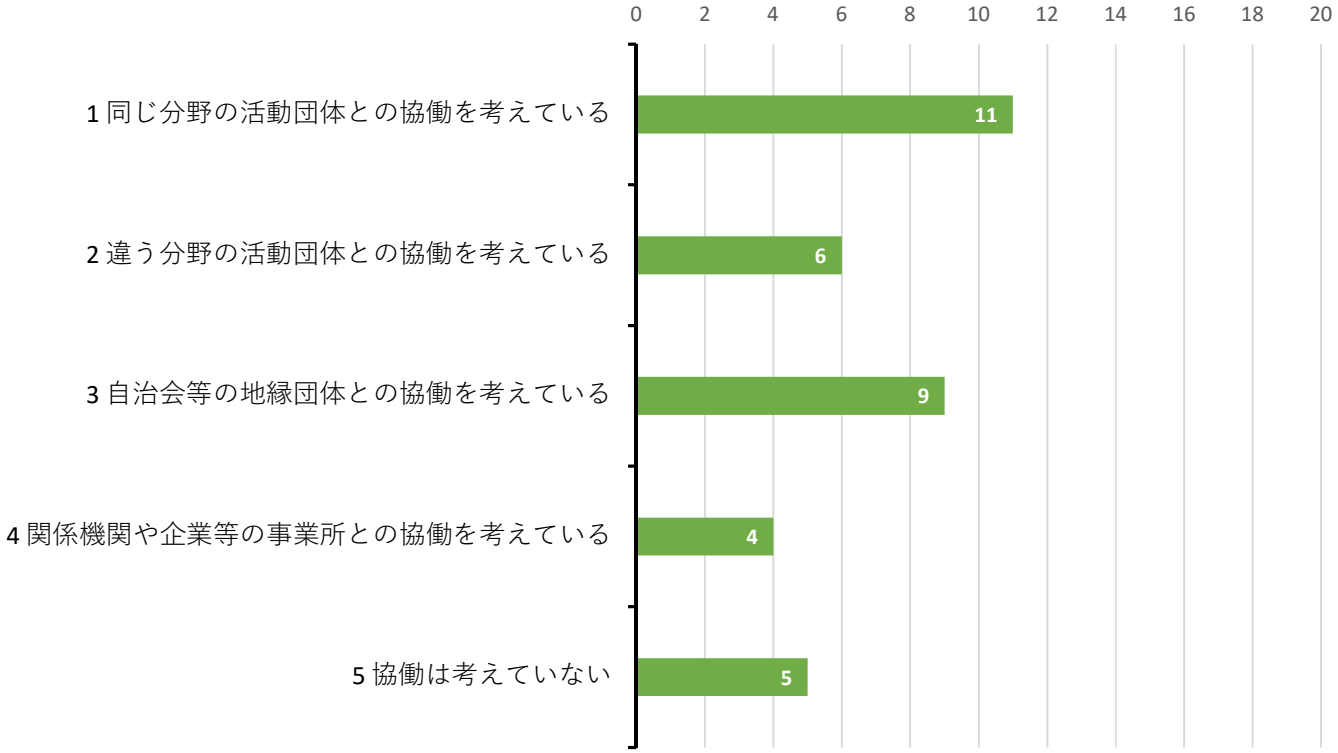
1.組織や運営や活動で抱えている問題や課題



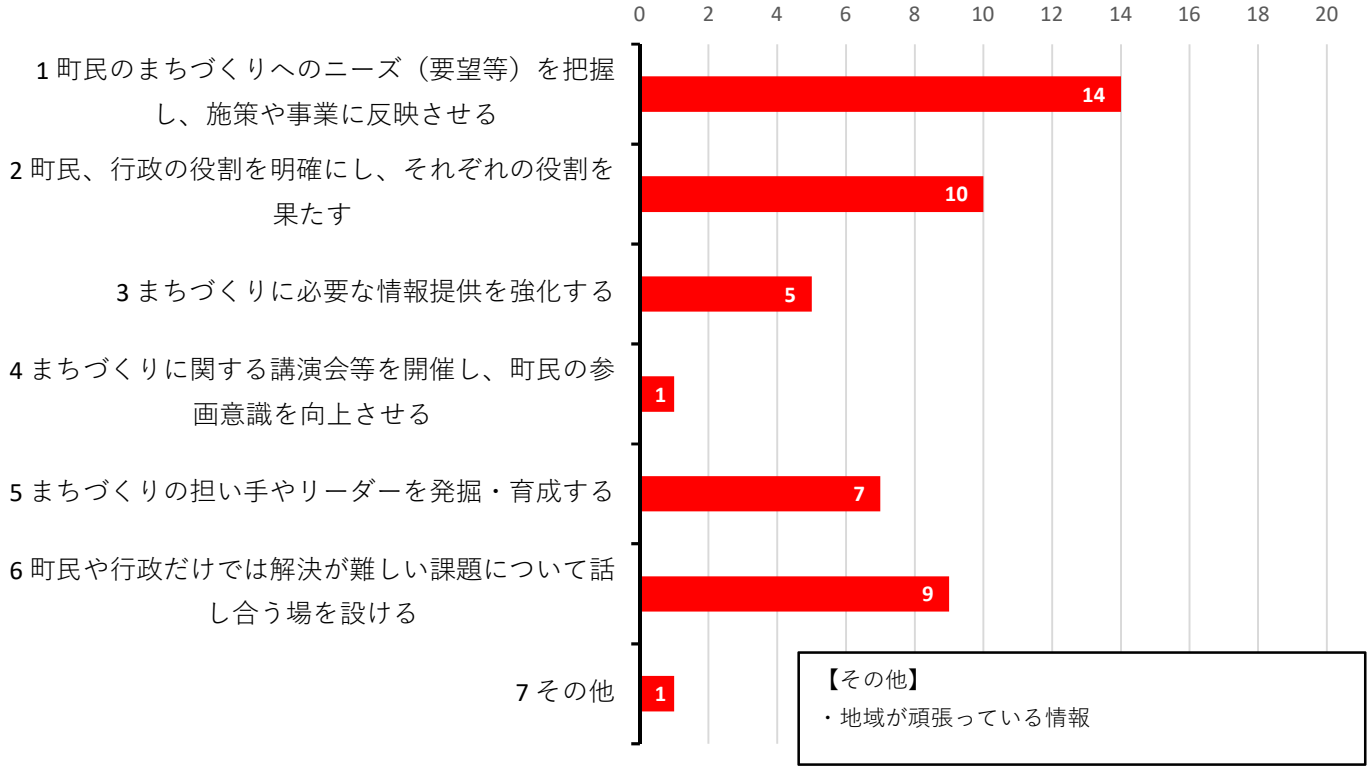
2.最上町は、NPOやボランティア団体に対して、具体的にどのような支援をすることが必要だと思いますか？



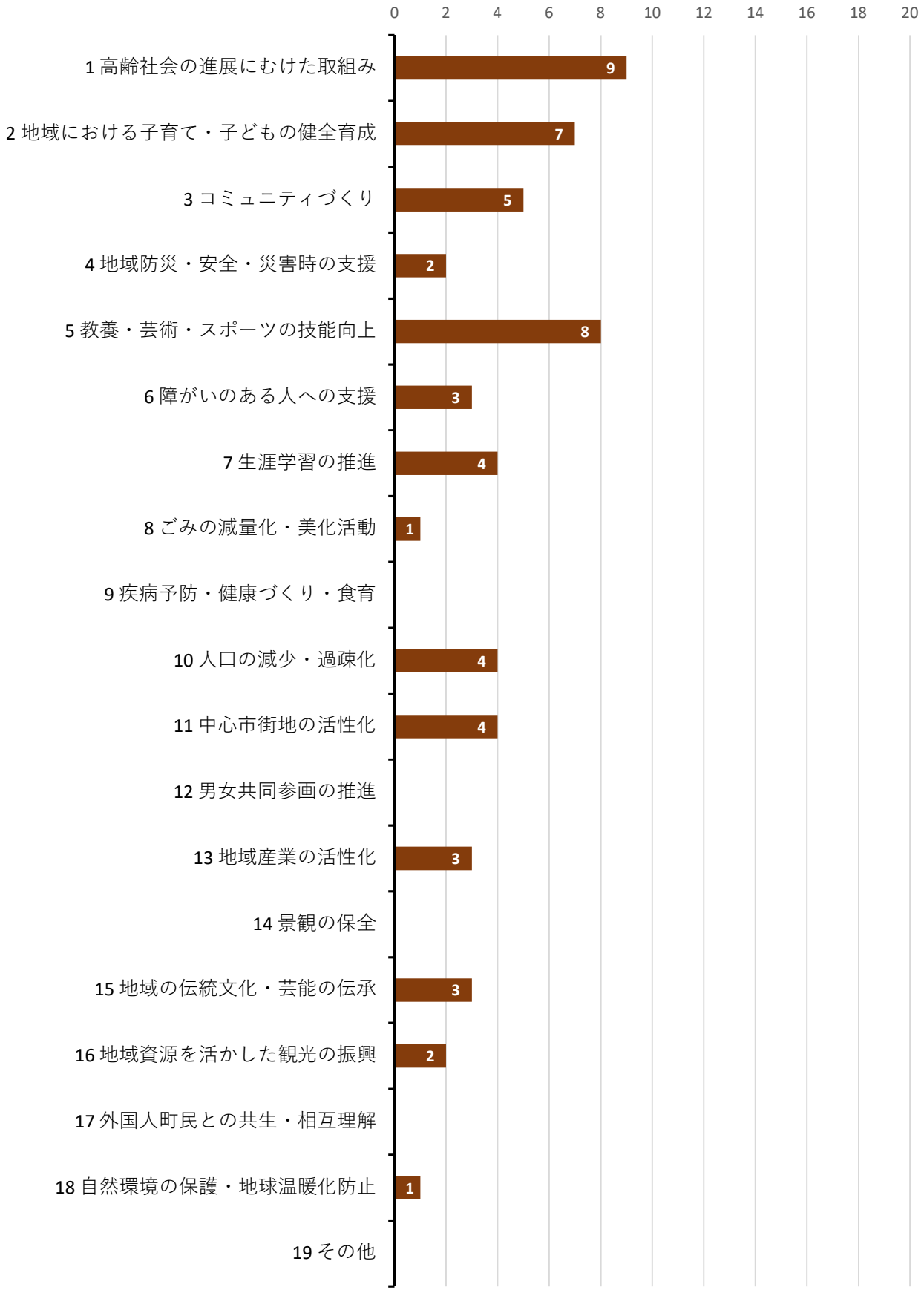
3.他の団体や行政、事業者との協働（連携）を考えていますか？



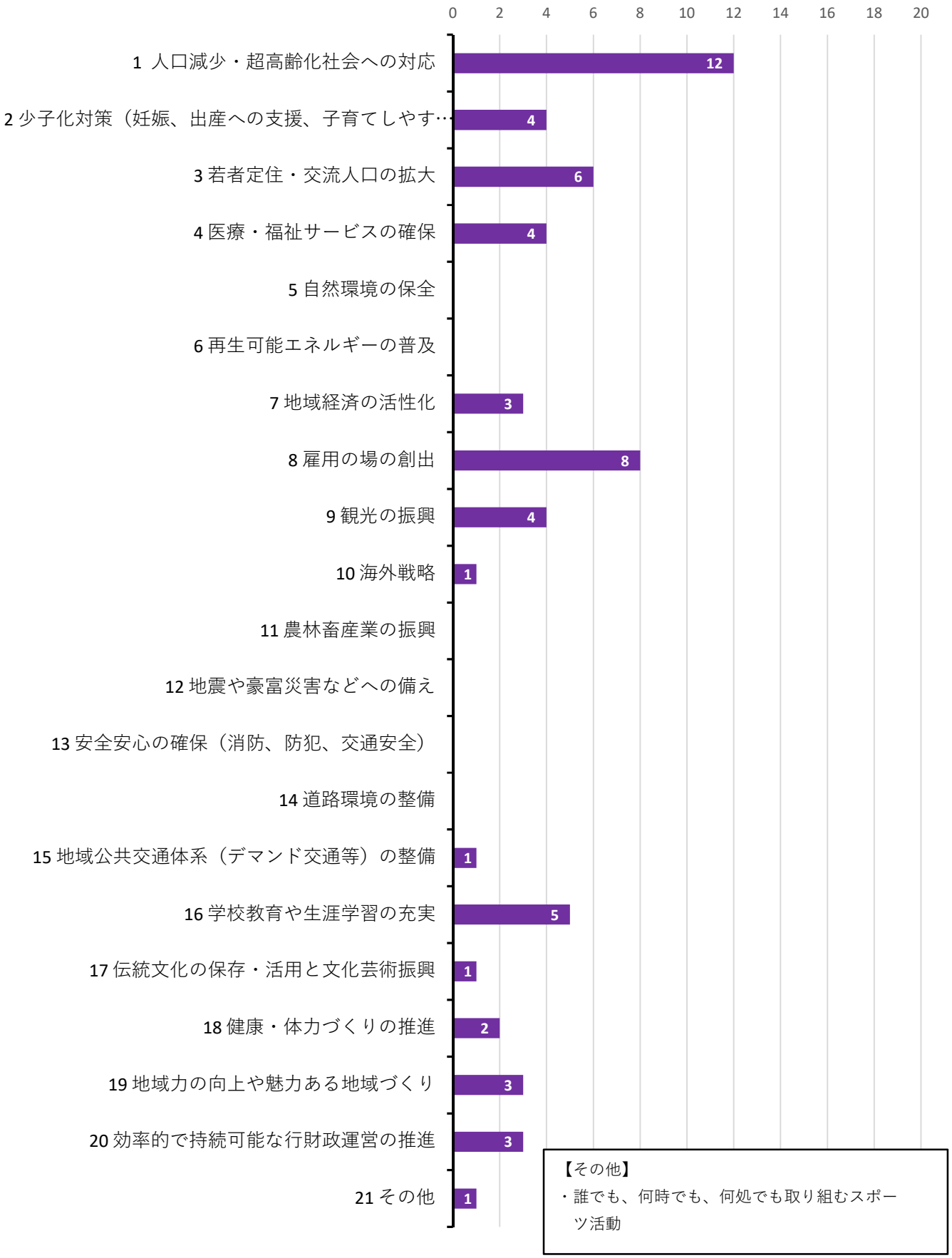
4.町民と行政が協働のまちづくりを進めるうえで、何が重要だと思いますか？



５.将来的に取り組みたいと思われる社会的な課題に対する活動は何ですか？



6.今後、最上町はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか？



7.これまで最上町が進めてきたまちづくりについて、どのように受け止めておられますか？
また、今後、どのようなまちづくりを目指すべきとお考えですか？

・今までも広報等で素晴らしい情報を提供して頂いていましたが、今後はもっとまちづくりに関する情報を住民に向けて発信してほしいと思います。

・まちづくりの施策について、２～３例を標記し、現在、経緯、結果などにより具体的な事例を示すことにより、様々な意見の集約がより多く記載されると思う。

・将来像としての「あるべき姿」は、当然、町全体としての計画となり、項目ごとに方針、課題、整備計画など詳細に記載されるものと思います。しかし、「どのようなまちづくりを目指すべき」においては、今の時代であるからこそ、町民が誰でも理解でき、なるべくシンプルに子供から大人まで分かり合えるまちづくりを目指すべきだと思います。

・抽象的な表現が多すぎて、何をやろうとしているのか理解できない。もっと具体的なビジョンを示さなければ意味がない。お花畑のような総花的な話は、聞く方にとってはつらい。もっと強弱、メリハリのある施策を期待したい。

・働く場を充実した方が良いのではないか？例えば大衡村の様に高速道路のインターチェンジまで作ってしまう様な企業等は夢でしょうか。働く場所があれば若者定住にも繋がると思います。

・町の総合計画（１～４次）が終了した時、総括（実施計画の実現の可否と反省点）をしているのか。

・ウエルネスが始まった頃、体の健康とか心の健康の文化活動がありましたが、最近聞かれなくなっています。地域・まちづくりの一つとして、心の豊かさを求める文化活動は欠かせない要因の一つだと思います。

・自然と人材を活かした交流が大切だと思います。特別なものは必要ではない。普通に心の交流ができればと思います。

・町民の方のご意見等をお聞きしながら、積極的に最上町のまちづくりに取り組まれ努力されていると思います。人口減少・超高齢化社会の対応は避けて通れない難しい事であります。高齢者施設としての役割をしっかりと果たして行きたいと考えます。

・これまでどのようなまちづくりを目指して進めてこられたのか明確にされているものを見たことがあるのかと考えてしまいました。今後は、関わっている方だけが頑張るまちづくりではなく、町民みんなで取り組み、成果を全員で確認し、知ることができる、まちづくりはいかがでしょうか。

・予想以上の少子高齢化が急速に進んでいるようだ。関係団体が垣根を越えた連携、ネットワークづくりが必要になると思われる。福祉系のNPOとして活動・運動を興していきたい。

・町全体のスリム化が必要だと思う。人口が大幅に減少している事から新たなまちづくりよりも町全体の見直しの方が大切だと思う。特に公共施設（小学校含む）を将来的にどうするのか？今後維持可能なのか？等、行政のあり方の見直しも必要だと思う。町会議員の定数、特別職を含めた機構改革等。

・概ね良好にすすめられたと思っています。今後ますます超高齢化社会が進みます。流雪溝や消雪道路の整備が必要と思う。（インフラ）行政と町民の交流の場を増やす取り組み

・上記で取り上げた「スポーツ活動」ですが、近年最上町でおろそか？になっている分野ではないでしょうか。数年前に「スキーは町技」の呼び掛けや野球、中長距離選手育成の駅伝大会等、大変活発に取組まれた時代があったが、いまでは仕方なくお付き合いしている「町民運動会」ぐらいしか無くなりました。子供たちも含めスポーツを通した生き生きとした姿が影をひそめている様な気がします。上記の健康体力づくりは、スポーツ活動の成果の一つですが、それとは違う「スポーツによる仲間づくり、地域づくり」の視点を持つ必要があると思う。活発なスポーツ活動で町の新たな魅力を見つけ、若者定住や地域活性化を図っていくべきだと考える。

・行政と集落の考えが少しずれを感じる。集落と情報交換する場を作るべき（小学校単位では聞き取りづらい）

・みんな頑張っている最上町、こんな事ではないと思いますが、深刻な地球温暖化の様々な問題を抱えたまま２１世紀を迎えた。平成から令和に期待し、同じ東北人として決して忘れることが出来ない3.11東日本大震災の災害、令和に入り訳の分からない新コロナの名前。住民は不安な毎日を過ごしています。ボランティアも月２，３回行きますが高齢者が高齢者の世話をしているように感じられるようになりました。ボランティアも事も５次計画にぜひ取り入れて考えて欲しいと強く思います。

・少ない人数ではありますが、ボランティアサークルつくし会は子どもから高齢者までの人たちと交流を深め、最上町の良さを充分に伝え、より良いまちづくりを目指していきたいと考えています。

・スポ少はスポーツだけでなく子供たちの人間育成が必要だと思っています。教育方面だけでなく各課からスポ少（子供たち）の参加を要請していただければ、ぜひ協力しまうｓ。

・自治協働のまちづくりの推進は、行財政運営にも深く関わってきます。町は協働のまちづくりをどこまで求めているのか。人口減少が進む中、町の財政や職員数も相当にすべきとの声も出てきます。従来通りの支出でよいのか、考えていくべき

・私たちNPOは、自治協働を実践する見本になればと考えています。補助金に頼らず民間業者よりも安価に業務を請負うことで少しでも財政の手助けになるものと思います。